

樹木医診断結果要約

膝折浄水場場内ソメイヨシノについて

調査年月日 令和4年（2022年）9月13日 火曜日

○ソメイヨシノの状況

太枝にキノコ、コスカシバの虫害、根元の巻根等の問題は確認できるが樹勢は良好である。

○配水池躯体撤去による影響

配水池躯体撤去に当たり、重機の可動範囲を確保するために躯体の上部の枝は全て剪定する必要がある。

幹面と配水池躯体は1m弱しか離れていないため、地上部ではかなり太い枝も切断する必要があり、また、地下部分では太根を撤去することとなる。

このことから予想される影響は、以下のとおりである。

【地上部】

- ・樹形がかなり偏ったものとなり、回復には5年から10年の年月を要する。
- ・太枝を切断することで切り口より腐朽菌に罹患し、太枝、幹の腐朽が進んでしまう。

【地下部】

- ・太根撤去による養水分の吸収が減り、地上部の樹勢が衰退する。
- ・太根の切断面より腐朽菌に罹患し、幹部、根株部の腐朽が進んでしまう。
(根株部の腐朽は倒木につながり非常に危険である。)
- ・配水池躯体沿いの太根が全て失われ、躯体による押さえも無くなることから、バランスが崩れ道路方向への倒木の危険が高まる。

○移植について

- ・当ソメイヨシノは老木（樹齢50年以上）であり、移植に対する耐性が低い。
- ・短期間で2回の移植（場外に仮移植し、工事後城内に本移植）を行った場合、樹木に対する負担が大きく枯れ死する可能性が高い。
- ・移植により太枝の剪定、太根の切断を行うこと腐朽菌（キノコ）に罹患する可能性が非常に高く、5年から10年後以降に心材腐朽による倒木、幹折れ、枝折れ等の危険が高まってくる。

市としての取扱い

診断結果が、道路側への倒木の恐れがあること、移植には適さないこと、の2点であり、城山公園内における倒木の事例等を鑑み総合的に判断すると、伐採することが妥当と考えられます。